

第 47 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境(雑木林)の順応的管理—

3月21日(土)、今回の現場研修会は、先月に引き続き樹林環境(雑木林・植林地)の順応的管理というテーマで、園内のあまり手を入れていない樹林地の皆伐・間伐作業を行いました。



春の陽気につつまれた谷戸山公園。コブシが花をつけ、ヤナギが芽吹いています。
田んぼの畦では春の七草のひとつハコベが咲いていました。



さて、これまで管理作業を続けてきた
樹林での間伐から研修会スタートです。



間伐を続けてきた成果でしょうか。春の明るい林床ではコナラの実生やスミレなどが見られました。



でも、林床は明るく見えますが、樹冠を見上げるとまだ木が混んでいるのが分かります。夏になり葉が茂ると暗い林になってしまうんです。実はこの林、皆伐更新の実施が決まっています。



ある程度の広さを一斉に伐採することで効果的に萌芽更新をさせ、林を若返らせるのです。クヌギやコナラなどは切り株からの萌芽力が強く、伐採しても10数年で元の林に戻ります。



里山では薪炭を得るために普通に行われていたこの作業も、今はあまり行われなくなっています。皆伐に向けて、のこぎりで切れる太さの木はできるだけ伐採しておきます。



昼食と、恒例の「気になった環境記事」の発表をはさんで、午後の作業開始です。



現場に向かう途中、秋に作業したホトケドジョウの水路を見学。
わきみずの谷では春植物ニリンソウが花を咲かせていました。



午後は放置された植林地の管理作業です。
この樹林は常緑樹に覆われ、昼でも真っ暗です。



そんな暗い林床でも植物は頑張って生きています。
左がコ克蘭、右がトウゲシバで、この植生を見ても暗い環境だということが分かります。
踏んだり傷つけたりしないよう、しっかりマークしてから作業を行います。



データと照合しながら間伐する木を確認し、伐採していきます。



作業にノルマはありません。休憩したり、切った木の年輪を数えたり、写真を撮ったり、知らない植物を図鑑で調べたりしながら。



伐採した分だけ森が明るくなるのが分かります。



最後にデータをまとめて、研修会の終了です。

次回以降の研修会も、樹林の管理やホトケドジョウの生息環境づくり、湿生生態園の管理作業などを行っていきます。まだ参加されたことのない方も、気軽にご参加ください。